J

CRX-330

CDレシーバー

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。
■保証書は、「お買い上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

取扱説明書

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源 / 電源コード

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

● 異常なにおいや音がする。 ● 異常に高温になる。

● 内部に水や異物が混入した。● 煙が出る。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

電源コードを傷つけない。

● 重いものを上に載せない。

● ステープルで止めない。● 加工をしない。

● 熱器具には近づけない。● 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

本機のSTANDBY/ONスイッチでスタンバイ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。

本機を完全に主電源から切り離すためには、電源コードをコンセントから抜いてください。

電池

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。

修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。
- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。

禁止

放熱のため本機を設置する際には:
- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

(本機の周囲に左右10cm、上10cm、背面10cm以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意

禁止

ディスクの挿入口や、放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

手を挟まれないよう注意

ディスクをセットする際は、手をディスクトレイに挟まれないよう注意する。

閉めるときに挟まれて、けがの原因になります。

必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ

必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源 / 電源コード

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池

必ず実行

電池は極性表示(プラス+とマイナス−)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。

移動

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。

ディスクの挿入口には手を入れない。
本機のメカニズムに手を引き込まれ、けがの原因になります。

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクを使用しない。
ディスクは、機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因になります。

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

レーザー光源をのぞき込まない。
レーザー光が目に当たると、視覚障害の原因になります。

手入れ

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。
ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

目次

はじめに

準備と接続

基本操作

FM 放送を聴く

応用操作

その他の情報

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

特長

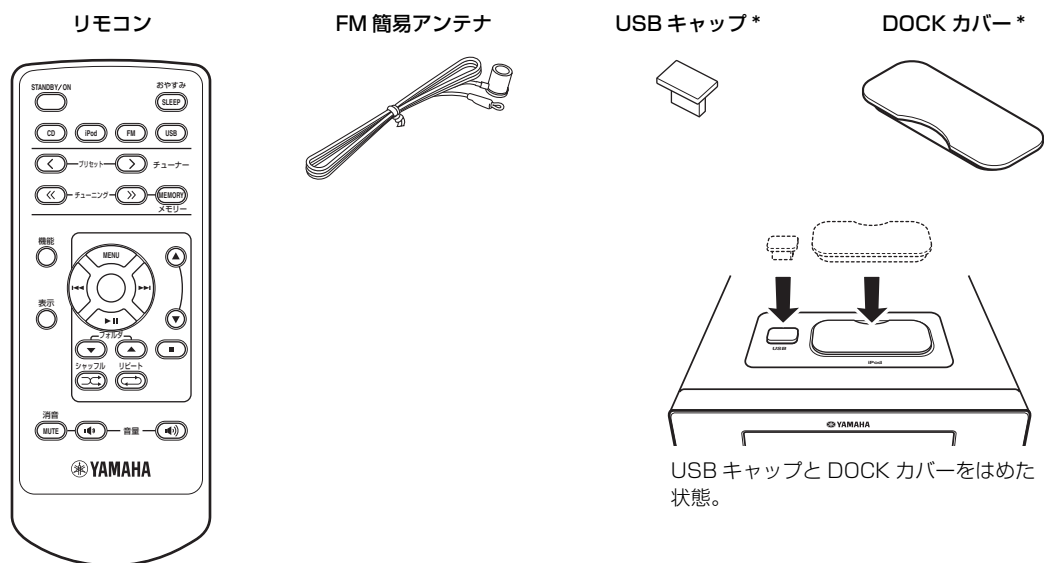
- 実用最大出力 20W+20W
  （1kHz、全高調波歪率 10%、6Ω）
- FM 30 局プリセット登録
- iPod 再生機能
- MP3/WMA ディスク、音楽 CD 対応
- CD-TEXT ディスク情報表示
- USB デバイスに保存された MP3/WMA ファイルの再生
- 多機能リモコン付属

本書について

・本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。
・リモコン中央にある丸いボタンを「センターキー」と表記しています。
・「ご注意」では操作・設定を行うときに留意すべき事項、 では知っておくと便利な補足情報を記載しています。
・本書は製品の生産に先がけて作成されたものです。製品改良などの理由で実際の製品や梱包箱と内容が一部異なる場合がございますのでご了承ください。

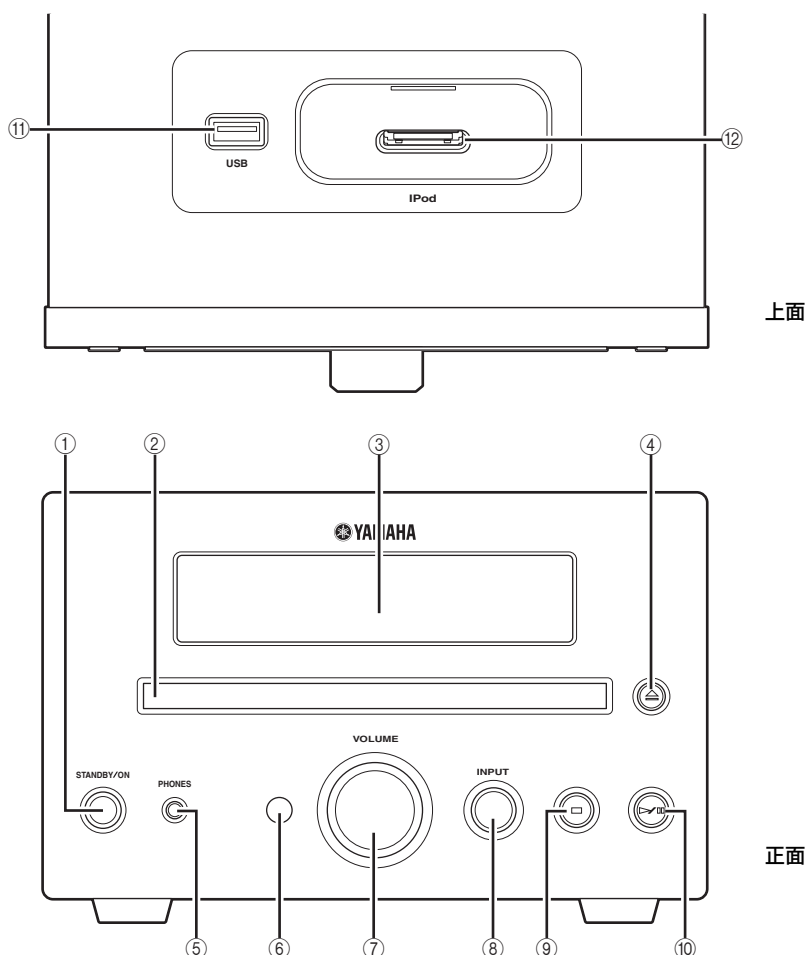
付属品

梱包箱を開封後、以下の付属品がすべてそろっていることをご確認ください。

USB キャップと DOCK カバーをはめた状態。

* USB デバイスや iPod を使用していないときに、USB ポートや iPod 端子にふたをすることができます。

各部の名称とはたらき

フロントパネル

はじめに

① STANDBY/ON（スタンバイ／オン）ボタン
電源のスタンバイ／オンを切り替えます。

② ディスクトレイ
ディスクをセットします。

③ ディスプレイ
FM 放送局やさまざまな情報を表示します。

④ ⏏ ボタン（ディスクトレイ開閉ボタン）
ディスクトレイを開閉します。

⑤ PHONES（フォンズ）端子
ヘッドホンを接続します。

⑥ リモコン受光窓
リモコンの信号を受信します。

⑦ VOLUME（ボリューム）つまみ
音量を調節します。

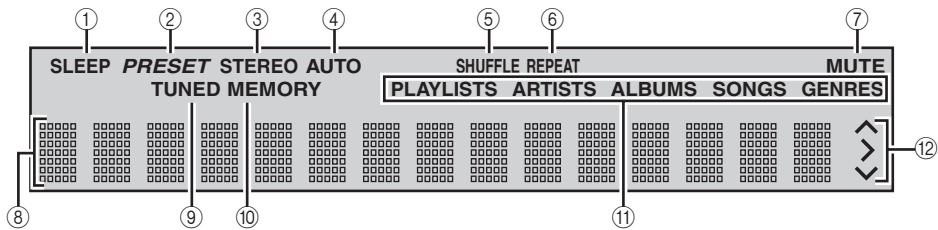
⑧ INPUT（インプット）ボタン
本機の入力ソースを選択します。

⑨ □ ボタン（停止ボタン）
再生を停止します（15 ページ）。

⑩ ▷/II ボタン（再生／一時停止ボタン）
再生を開始または一時停止します（15 ページ）。

⑪ USB ポート
USB デバイスを接続します（12 ページ）。

⑫ iPod 端子
iPod を接続します（12 ページ）。

ディスプレイ

① SLEEP インジケーター（スリープ）
スリープタイマー機能使用時に点灯します（14 ページ）。

② PRESET インジケーター（プリセット）
プリセット局を選局しているときに点灯します（19 ページ）。

③ STEREO インジケーター（ステレオ）
電波の強い FM ステレオ放送を受信すると点灯します。

④ AUTO インジケーター（オート）
自動選局を行っているときに点灯します（18 ページ）。

⑤ SHUFFLE インジケーター（シャッフル）
iPod、CD、USB がシャッフルモードに設定されているときに点灯します。

⑥ REPEAT インジケーター（リピート）
iPod、CD、USB がリピートモードに設定されているときに点灯します。

⑦ MUTE インジケーター（ミュート）
消音したときに点灯します。

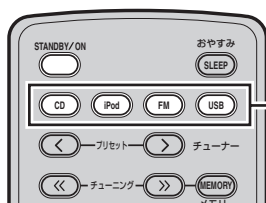
⑧ メインディスプレイ
FM 放送局やさまざまな情報を表示します。

⑨ TUNED インジケーター（チューンド）
放送局を受信しているときに点灯します。

⑩ MEMORY インジケーター（メモリー）
プリセット局を登録しているときに点灯 / 点滅します（20 ページ）。

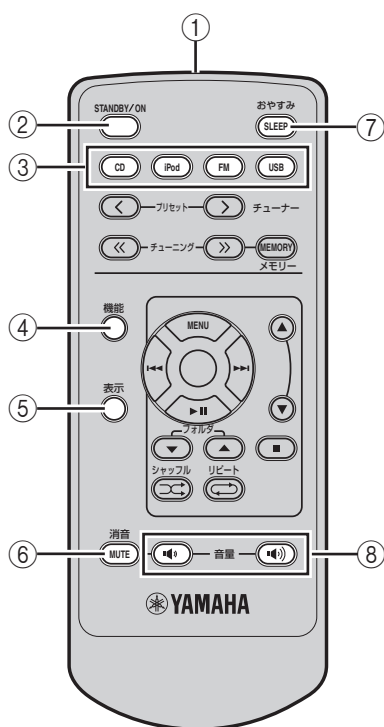
⑪ マルチインフォメーションインジケーター
現在選択されているメニューを表示します。（21 ページ）。

⑫ 操作インジケーター
機能キーを使用しているときや、メニューブラウズモードで iPod メニューを操作しているときに操作可能なカーソルを表示します。（21 ページ）。

リモコン

付属のリモコンを使用して、CD プレーヤーや iPod、チューナー、USB デバイスを操作することができます。

本機の入力ソースを切り替える

リモコンの入力ソース選択キー（またはフロントパネルの INPUT ボタン）を押して、操作したい入力ソースを選択します。選択した入力ソース名がフロントパネルに表示されます。
再生中の iPod を接続すると（12 ページ）、入力ソースは自動的に「iPod」に切り替わります。

■ 共通の機能

以下のキー操作はすべての入力ソースに共通の操作です。

① **赤外線送信部**
リモコン操作用の赤外線信号を送信します。

② STANDBY/ON キー
本機の電源のスタンバイ／オンを切り替えます。

③ **入力ソース選択キー**
入力ソースを選択します。

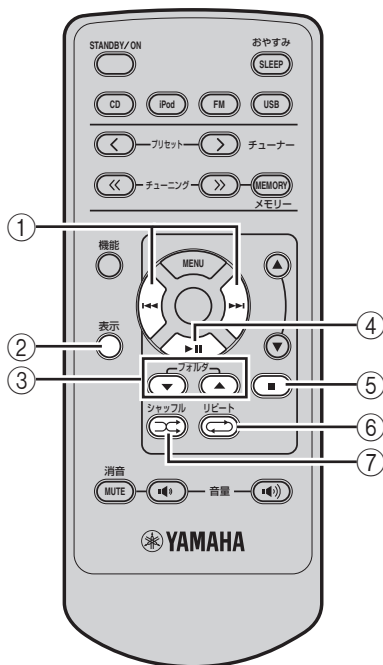
④ **機能キー**
DIMMER、TREBLE、BASS、BALANCE、ECO MODE を選択します（13 ページ）。

⑤ **表示キー**
ディスプレイの表示内容を切り替えます（16 ページ）。

⑥ MUTE（消音）キー
消音します。再度 MUTE キーを押すか、音量（小）/（大）キーを押すと、消音を解除します。

⑦ SLEEP（おやすみ）キー
スリープタイマーを設定します (14 ページ)。

⑧ **音量（小）/（大）キー**
音量を調節します。

■ CD/USB モード

CD または USB モードで使用できる操作

① ⏮、⏭ キー
再生中のトラックまたは次のトラックの開始位置にスキップします。長押しすると、早戻し／早送りします（15 ページ）。⏮ を 2 度押しすると前のトラックに戻ります。

② 表示キー
ディスプレイに表示されるディスクや USB デバイスの情報を切り替えます（16 ページ）。

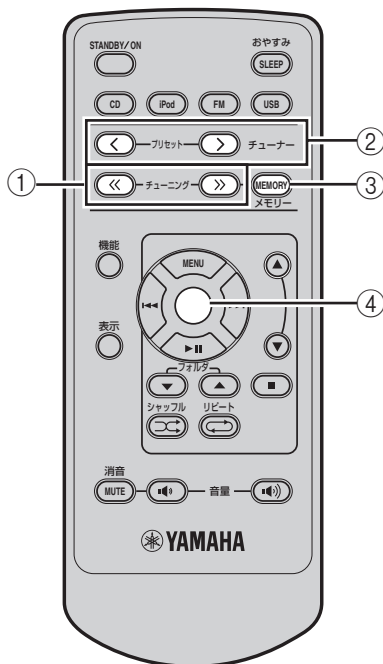
③ フォルダ ▼ / ▲ キー
▼ / ▲ を押して、選択した MP3/WMA フォルダの最初のファイルを再生します。(15 ページ)。
* シャッフル再生中は使用できません。

④ ▶II キー（再生 / 一時停止キー）
再生を開始、または一時停止します（15 ページ)。

⑤ ■ キー（停止キー）
再生を停止します（15 ページ)。

⑥ リピート キー
リピート再生を設定します (17 ページ)。

⑦ シャッフル キー
シャッフル再生を設定します (17 ページ)。

■ FM モード

FM モードで使用できる操作

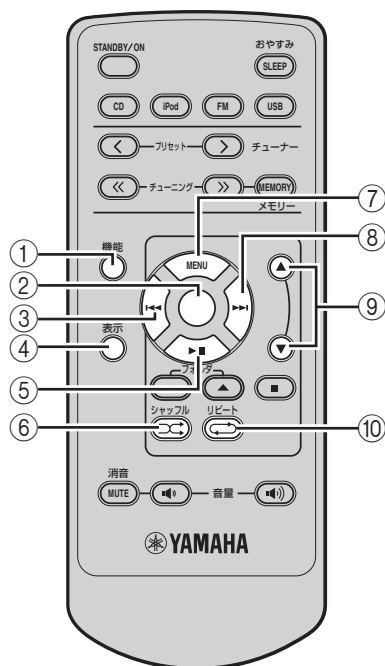
① チューニング《/》キー
チューニング《/》キーを押して手動で放送局を選局します。長押しすると、自動で放送局を選局します。

② プリセット〈/〉キー
プリセット〈/ 〉キーを押してプリセット番号（登録した放送局）を選択します（19 ページ)。

③ MEMORY（メモリー）キー
プリセット登録を開始します。

④ センターキー
設定を実行します。

■ iPod

付属のリモコンには、iPod のコントローラーと同じ機能があります。上記のイラストで、iPod の操作をご確認ください。

iPod モードで使用できる操作

iPod 端子にセットされた iPod の操作ができます。iPod の操作の詳細は「iPod™ を使う」をご参照ください（21 ページ）。

① **機能キー**
シンプルリモートモードとメニューブラウズモードを切り替えます。

② **センターキー**
選択したメニューに移ります。（曲が選択されているときに押すと、再生が開始されます。）

③ **⏮ キー**
曲の最初に戻ります。長押しすると、早戻しします。2 度押しすると前の曲にスキップします。

④ **表示キー**
メニューブラウズモードのとき、曲情報を表示します（16 ページ）。

⑤ **▶⏸キー（再生 / 一時停止キー）**
再生を開始、または一時停止します。

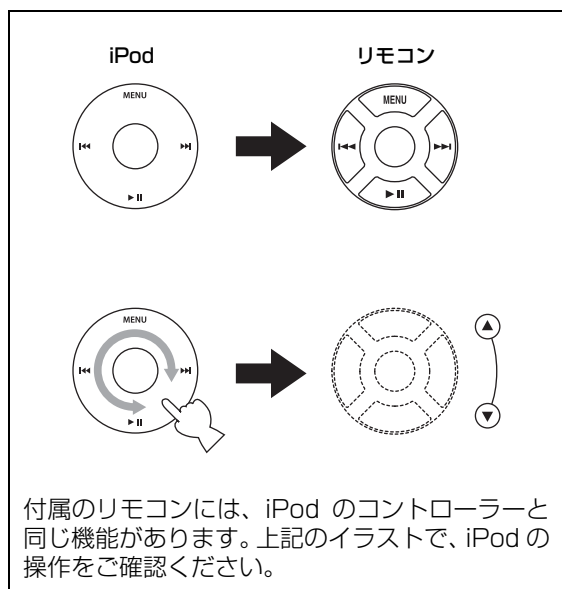
⑥ **シャッフル🔀 キー**
シャッフル再生を設定します（22 ページ）。

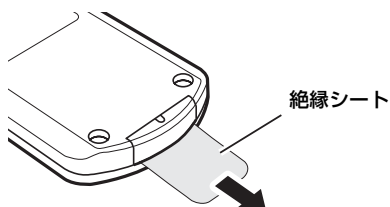
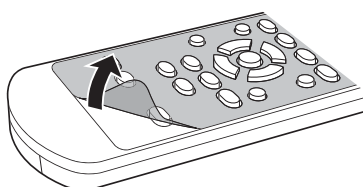
⑦ **MENU（メニュー） キー**
iPod の前のメニューに戻ります。

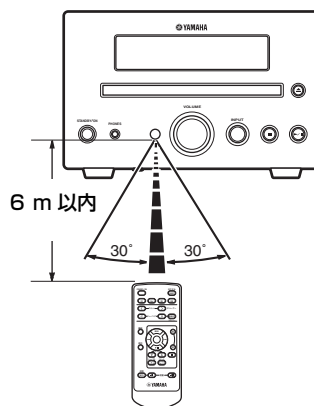
⑧ **⏭ キー**
次の曲にスキップします。長押しすると、早送りします。

⑨ **▲ / ▼ キー**
▲ または ▼ キーを押して選択メニュー内の項目を移動します。

⑩ **リピート🔁 キー**
リピート再生を設定します（22 ページ）。

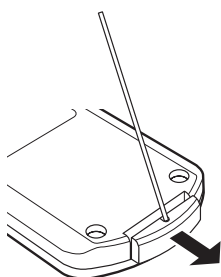
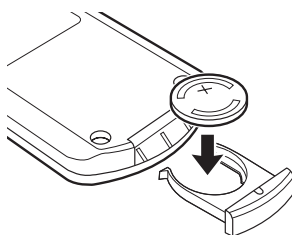
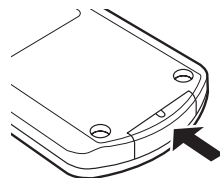
はじめに

■ リモコンの準備をする

リモコンには電池が挿入されています。リモコンを使用する前に、下の図のように絶縁シートを引き抜いてください。

リモコンを使用する前に外装保護シートをはがしてください。

■ リモコンを使用する

リモコンで本機を操作する際は、リモコンの赤外線送信部を本体のリモコン受光窓（3 ページ）に向けます。リモコン操作が可能な範囲は、本体から 6 m 以内で正面から左右に 30 度以内です。

ご注意

- リモコンに水や飲み物などをこぼさないようご注意ください。
- リモコンを落としたり、リモコンに強い衝撃を与えたりしないようご注意ください。
- リモコンを以下のような場所に放置しないでください。
  – 気温・湿度が高い場所（ヒーターの近くや風呂場など）
  – 極端に気温が低い場所
  – ほこりっぽい場所

■ リモコンの電池を交換する

リモコンの電池が消耗すると、リモコンで本機を操作できる距離が極端に短くなります。このような場合、早めに新しい電池と交換してください。

先の細いピンなどで電池ケースを取り外します。

新しい CR2025 型ボタン電池を電池ケースに挿入します。

電池ケースをリモコンに装着します。

ご注意

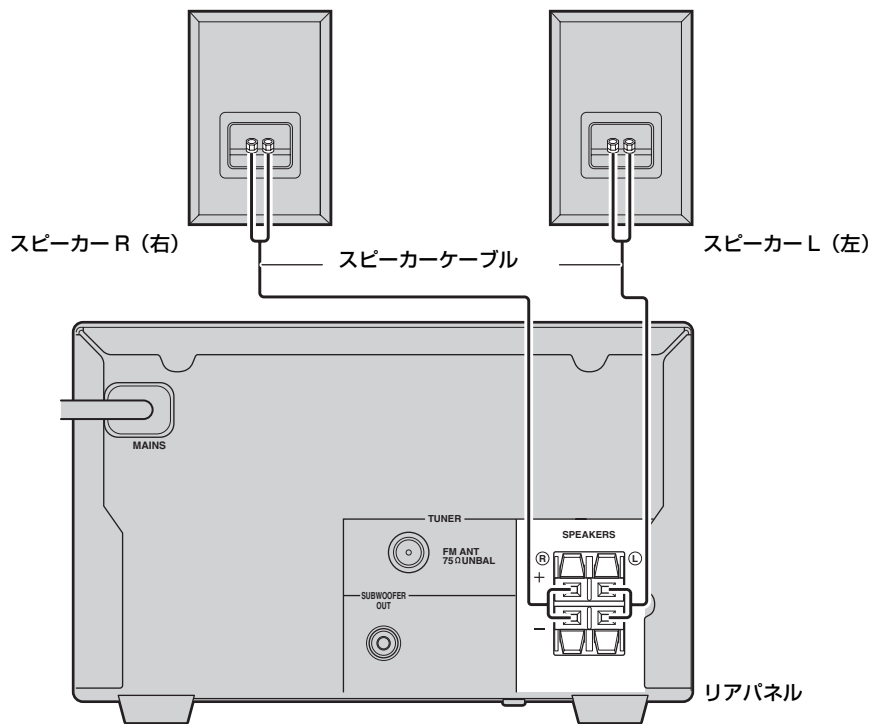
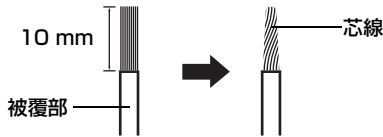
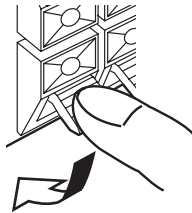
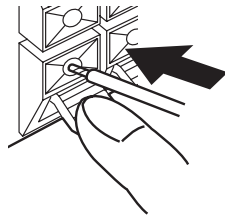
- 電池の向き（＋ / －）を正しく合わせて挿入してください。
- 使い切った電池はただちにリモコンから取り出してください。リモコンに挿入したままにしておくと、破裂や液漏れの原因となります。
- 電池が液漏れしている場合は、ただちに電池をリモコンから取り出し、廃棄してください。その際、肌や衣服が漏れているバッテリー液に触れることのないよう十分ご注意ください。リモコンにバッテリー液が付着している場合はきれいに拭き取ってから新しい電池を挿入してください。
- 使い切った電池は地域の条例または取り決めに従って廃棄してください。

スピーカーを接続する

スピーカーを接続します。スピーカーに付属している取扱説明書もご参照ください。

ご注意

· すべてのケーブルを接続するまで、本機の電源コードは接続しないでください。
· 端子の左右（L、R）や、極性（赤 : +、黒 : −）を確認して正しく接続してください。間違えて接続すると音が不自然になったり、低音が出なくなったりします。また、接続が不十分だと音がまったく出なくなります。
· スピーカーの芯線どうしが接触したり、芯線が他の金属部に接触することのないようご注意ください。本機およびスピーカーを破損する原因となります。
· スピーカーは、インピーダンスが6 Ω 以上のものをお使いください。

準備と接続

1 スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を、10 mm ぐらいはがし、芯線をしっかりとよじります。

2 接続する端子のレバーを押します。

3 端子の穴にスピーカーケーブルの芯線を差し込み、指を離してレバーを戻します。

■ スピーカーケーブルについて

スピーカーケーブルは２本のケーブルからなり、そのうち１本は極性を区別するために色や形状を変えてあります。
一方のケーブルを本機とスピーカーの「＋（プラス、赤）」端子へ、もう一方のケーブルを「−（マイナス、黒）」端子へ接続してください。

ご注意

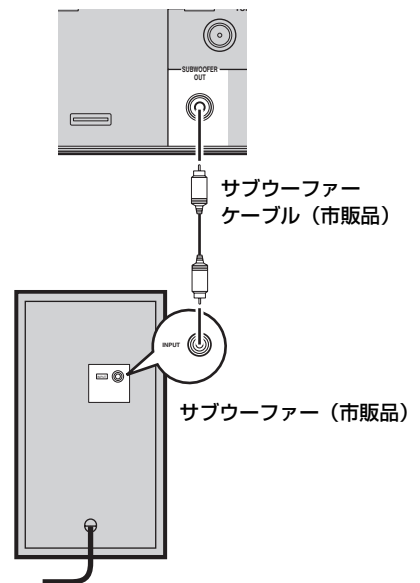
スピーカーケーブルは芯線部分だけを端子の穴に接続してください。ケーブルの被覆部（ビニール）まで差し込むと音が出ないことがあります。

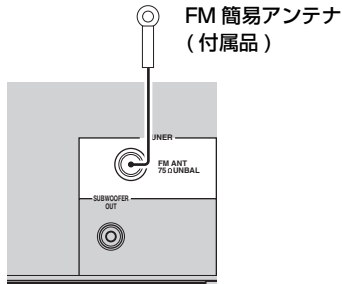
サブウーファーを接続する

本機にサブウーファーを接続すると、SUBWOOFER OUT 端子から音声の低域部分が出力されます。

ご注意

- 接続する前に、本機およびサブウーファーの電源コードが、AC コンセントに接続されていないことをご確認ください。
- サブウーファーはアンプ機能内蔵のものをご使用ください。

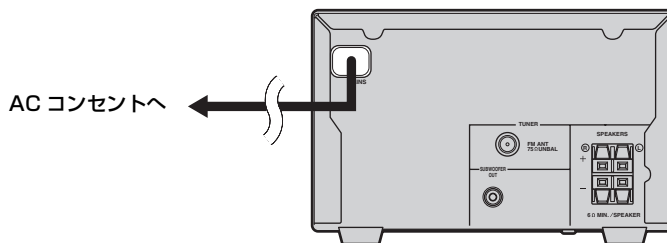
サブウーファーケーブル（市販品）を使用して、本機の SUBWOOFER OUT 端子とサブウーファーの INPUT 端子を接続します。

アンテナを接続する

本機で FM 放送を受信するには、FM アンテナを本機に接続する必要があります。本機には FM 簡易アンテナが付属していますので、通常は付属のアンテナをご使用ください。付属のアンテナでうまく受信ができない場合は、別売りの屋外アンテナをご使用ください。屋外アンテナの入手方法については、お近くの家電販売店や音響機器の販売店にご相談ください。

FM 簡易アンテナを接続する

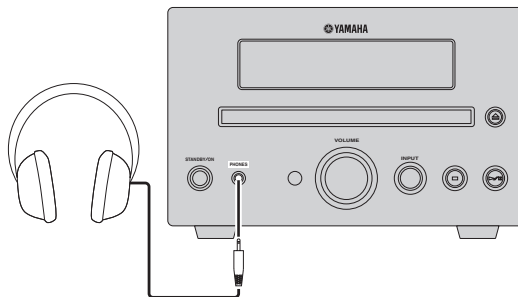
1 FM 簡易アンテナを TUNER 端子に接続します。

2 アンテナを本機およびスピーカーケーブルから離れた場所に設置します。

電源コードを接続する

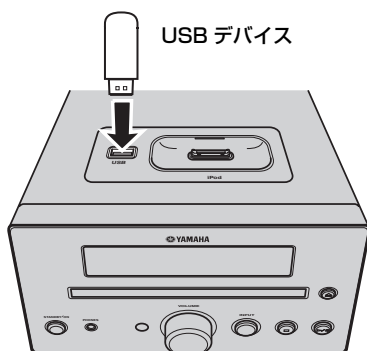
すべての接続が完了したら、本機とサブウーファー（市販品）の電源コードをコンセントに接続します。

ヘッドフォンを接続する

お手持ちのヘッドフォンを本機の PHONES 端子に接続します。スピーカーから音が消えます。

準備と接続

その他の機器を接続する

USB デバイスや iPod などのオーディオ機器を本機に接続できます。なお外部機器の機能については、ご使用の機器に付属している取扱説明書をご参照ください。

USB デバイスを接続する

USB デバイスに保存した MP3/WMA ファイルを再生するには、USB デバイスを本機の USB 端子に接続します。USB デバイスの再生については15 ページをご覧ください。

■　本機で使用できる USB デバイス

本機で USB デバイスに保存された音楽ファイルを再生する際は、以下のことをご確認ください。

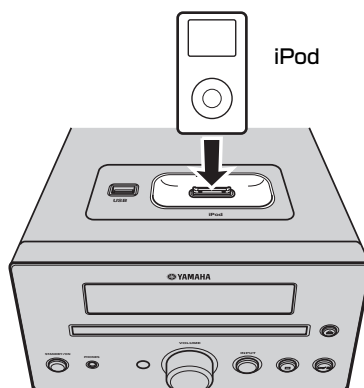
- USB マスストレージクラスに対応したフラッシュメモリ、ポータブルオーディオプレーヤーなどである。
- データが FAT16 または FAT32 ファイルシステムで記録されている。

ご注意

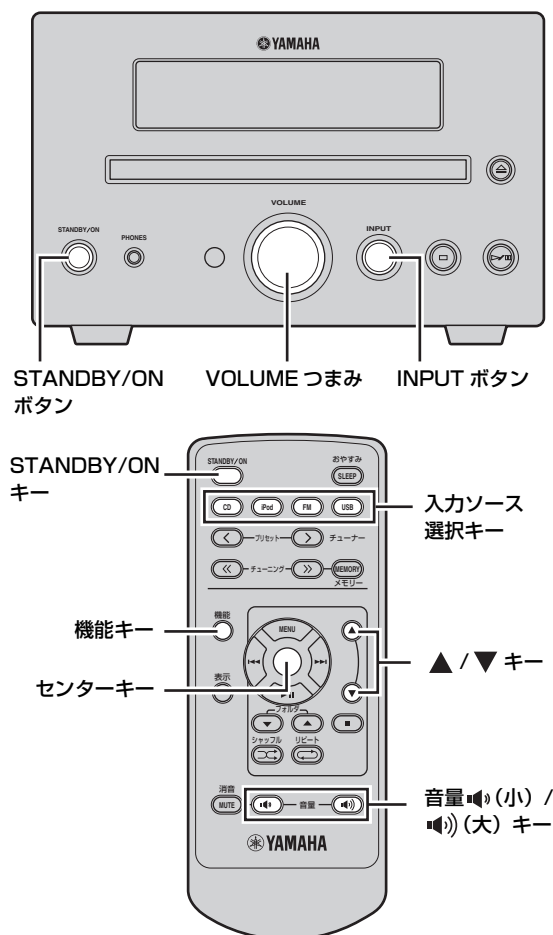
- お使いのデバイスによっては正常に再生できない場合があります。
- 本機と USB デバイスを接続しても音が出ないときは、以下をお試しください。
  - 本機の電源をスタンバイにしてから再びオンにする。
  - 本機の電源をスタンバイにしてから USB デバイスをとりはずし、再び接続してから本機の電源をオンにする。
  - USB デバイスに AC アダプタが付属している場合は、AC アダプタを接続する。
- 上記を試しても再生できない場合は、USB デバイスが本機に対応していない可能性があります。
- WAVE データは本機で再生できません。
- USB マスストレージクラス以外のデバイス（USB チャージャーや USB ハブ）、PC、カードリーダー、外付け HDD などは本機に接続することができません。
- USB デバイスを本機と接続して使用しているときに、USB デバイスのデータが万一消失あるいは損傷した場合、当社は一切責任を負いかねます。
- すべての USB デバイスに対して、動作および電源の供給を保障するものではありません。
- エコモード（13 ページ）をオフにすると、本機の電源をスタンバイにしても本機に接続した USB デバイスは充電されます。
- USB デバイスは、再生が停止してから取り外してください。

iPod™ を接続する

本機の上面には、iPod を直接接続できる iPod 端子が搭載されています。iPod を端子にセットすれば、iPod を本機のリモコンで操作することができます。お使いの iPod に適切な Dock アダプタ (iPod の付属品、または市販品) を取り付けた状態で使用してください。取り付けずに使用した場合、接触不良の原因となり、正しく動作しないことがあります。

ご注意

- iPod（クリックホイール仕様）、iPod nano、iPod mini、iPod touch に対応しています。
- iPod を本機に接続しているときに、iPod の付属品（ヘッドホン、リモコン、FM トランスミッターなど）を iPod に接続しないでください。
- 本機と iPod の接続が不十分なとき、音が正しく出ないことがあります。
- 本機と iPod の接続が正しく行われると、ディスプレイに「iPod」と表示されます。本機と iPod の接続が不完全な場合は状態を説明するメッセージが表示されます。メッセージについての詳細は「故障かな？と思ったら」（24 ページ）をご覧ください。
- エコモード（13 ページ）をオフにすると、本機の電源をスタンバイにしても本機に接続した iPod は充電されます。
- iPod は再生が停止してから取り外してください。

基本的なレシーバー操作

入力ソースとサウンド調整を行います。

1 STANDBY/ON キーを押して電源をオンにします。
ディスプレイが点灯します。

2 入力ソース選択キーの一つ、またはフロントパネルの INPUT ボタンを押してお好みの入力ソースを選択します。INPUT ボタンは、押すごとに CD、iPod、FM、USB と切り替わります。

3 選択した入力ソースの機器を再生または放送局を選局します。
ディスクの再生については 15 ページ、放送局の選局については 18 ページをご覧ください。

4 音量(小) / (大) キーを押して音量を調節します。

■ オーディオを設定する

1 機能キーを押して機能メニューを表示します。

2 ▲ / ▼ キーを繰り返し押して TREBLE、BASS、BALANCE を選び、センターキーを押します。

3 ▲ / ▼ キーを繰り返し押してオーディオを調整し、センターキーを押して設定を決定します。

TREBLE： 高音のレベルを調節します。
BASS： 低音のレベルを調節します。
BALANCE：左右のスピーカーの音量バランスを調整します。

ヘッドフォンを使用しているときは、TREBLE、BASS、BALANCE の設定は無効です。

■ ディスプレイの明るさを変える

ディスプレイの明るさを変えることができます。

1 機能キーを押して機能メニューを表示します。

2 ▲ / ▼ キーを繰り返し押してDIMMERを選び、センターキーを押します。

3 ▲ / ▼ キーを押して明るさを選び、センターキーを押して決定します。

■ エコモードを使う

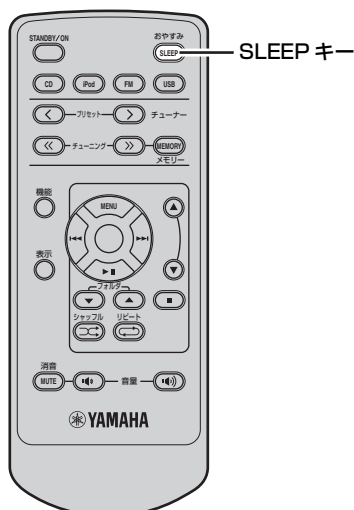
スタンバイのときの消費電力を少なくします。
ECO MODE を ON にしてスタンバイ状態にすると、iPod や USB デバイスの充電はできません。

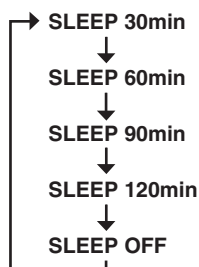
1 機能キーを押して機能メニューを表示します。

2 ▲ / ▼ を繰り返し押して、ECO MODE を選び、センターキーを押します。

3 ▲ / ▼ を押して、ON または OFF を選び、センターキーを押してモードを切り替えます。

スリープタイマーを設定する

スリープタイマー機能を使用すると、設定した時間が経過すると自動的に本機の電源をスタンバイにすることができます。おやすみのときなどに便利です。

SLEEP キーを押してタイマーを設定する時間を選択します。

SLEEP キーを押すたびに設定時間が以下のように切り替わります。
ディスプレイに SLEEP インジケーターが点灯します。

- 本機の電源をスタンバイに切り替えると、設定したスリープタイマーは自動的に解除されます。
- スリープタイマーが設定されているときに SLEEP キーを押すと、ディスプレイに残り時間が表示されます。

スリープタイマーを解除する

SLEEP キーを繰り返し押して「SLEEP OFF」を選びます。

ディスクと USB デバイスの基本的な再生操作

ここでは、本機で音楽 CD、USB デバイス、MP3/WMA ファイルなどを再生する際の基本操作を説明します。ディスクの種類により使用できる機能が異なります。本機で再生が可能なディスクの種類やディスクを取り扱う際のご注意については、「ディスク /MP3、WMA ファイルについて」（26 ページ）をご参照ください。

ディスクの再生を開始する

1 入力ソースを CD に切り替えます（13 ページ）。

2 ディスクが入っているときに ▶II キーを押します。
音楽 CD は 1 曲目から再生し、MP3/WMA ファイルはアルファベット順に再生します。

- フロントパネルの ⏏ ボタンを押すとディスクトレイが開きます。
- フロントパネルの ▶/II ボタンを押してディスクの再生を開始することもできます。
- 入力ソースが CD でディスクを本機にセットしたまま電源をスタンバイにした場合、電源がオンになるとディスクの再生が自動的に始まります。

USB デバイスの再生を開始する

1 入力ソースを USB デバイスに切り替えます（13 ページ）。

2 USB デバイスを本機に接続します。
ファイルやフォルダの数によって、読み込み時間が 30 秒を超えることがあります。
USB デバイスに保存された日時順でファイルの再生が自動的に始まります。

ご注意

- USB デバイスの総演奏時間は表示されません。
- USB デバイスがパーティション分割されている場合は、最初のパーティションを表示します。
- 選択したファイルにより、再生できない場合があります。
- 著作権保護がかけられているファイルは再生できません。
- 本機は 4 GB 以下の容量のファイルを再生します。
- 入力ソースが USB の状態で電源を切り、再び電源を入れたときに本機に USB デバイスが接続されている場合、USB の再生が自動的に始まります。

再生を停止する

■ キーを押します。

再生を一時停止する

▶II キーを押します。
通常の再生に戻すには、もう一度 ▶II キーを押します。

早戻し／早送りする

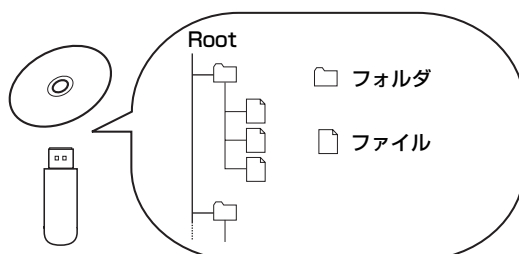
早戻しするには ⏮ キーを、早送りするには ⏭ キーを長押しします。

トラックをスキップする

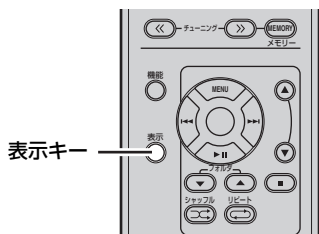
再生中のトラックの開始位置にスキップするには、⏮ キーを押します。
次のトラックの開始位置にスキップするには、⏭ キーを押します。
前のトラックの開始位置にスキップするには、⏮ キーをすばやく２回押します。

MP3/WMA ファイルのフォルダをスキップする

フォルダ ▼ / ▲ キーを押してフォルダをスキップします。

■ MP3 および WMA ファイルについて

本機では、CD-R や CD-RW、USB デバイスに収録した MP3 および WMA ファイルを、音楽 CD と同様に再生することができます。この際、上図のようにファイルはトラックとして認識されます。

ディスプレイの表示内容を切り替える

ディスプレイ表示の内容を切り替えることができます。表示の種類は、ディスクや USB デバイスの種類によって異なります。

再生中に表示キーを繰り返し押します。
キーを押すごとに、下記の「音楽 CD を再生しているとき」、「MP3/WMA ディスクまたは USB デバイスを再生しているとき」のように、ディスプレイの表示内容が切り替わります。

ご注意

ディスプレイに表示される文字は英数字のみです。漢字や、ひらがな、カタカナ、特殊記号は表示されません。

■ 音楽 CD を再生しているとき

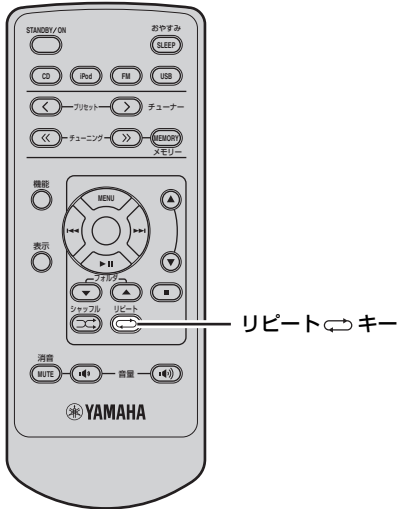
下記は、音楽 CD を再生中のディスプレイ表示例です。CD-TEXT ディスクの場合は、「トラック名」、「アーティスト名」、「アルバム名」も表示されます。

iPod がメニューブラウズモード（22 ページ）で再生されているときは、①②⑤⑥⑦ の情報を切り替えることができます。

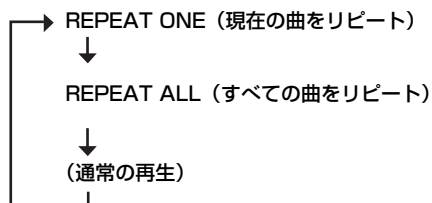
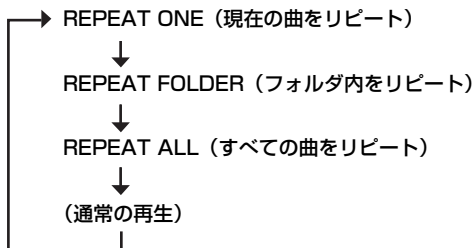
■ MP3/WMA ディスクまたは USB デバイスを再生しているとき

下記は、CD や USB デバイスに記録した MP3 または WMA ファイルを再生しているときのディスプレイ表示例です。

繰り返し再生する（リピート再生）

リピート再生を設定し、ディスクや USB デバイスを繰り返し再生することができます。

1 **繰り返したいトラック／フォルダ／ディスクを再生します。**

2 **リピート⇄ キーを押してお好みのリピートモードを選択します。**
リピート⇄ キーを押すごとに、ディスプレイの表示が以下のように切り替わります。

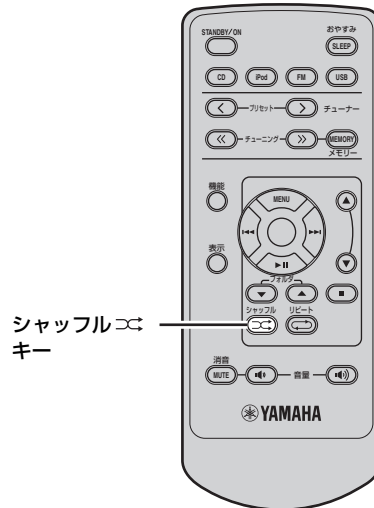
音楽 CD のリピートモード

MP3/WMA ディスクや USB デバイスのリピートモード

リピート再生を解除する

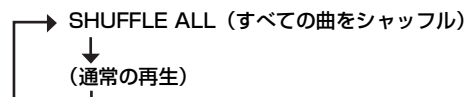
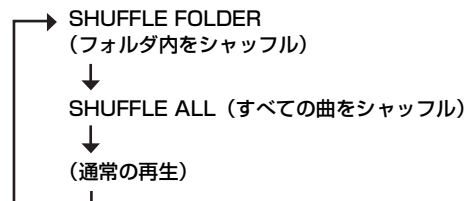
■ キーを押すか、リピートモードのインジケーターが消灯するまでリピート⇄ キーを繰り返し押します。

順不同に再生する（シャッフル再生）

本機のシャッフル再生機能を使用してトラックを順不同に再生することができます。

ご注意

シャッフル再生しているときは、ディスクの総残り時間は表示されません。

シャッフル⤨ キーを押します。
シャッフル⤨ キーを押すごとに、ディスプレイの表示が以下のように切り替わります。

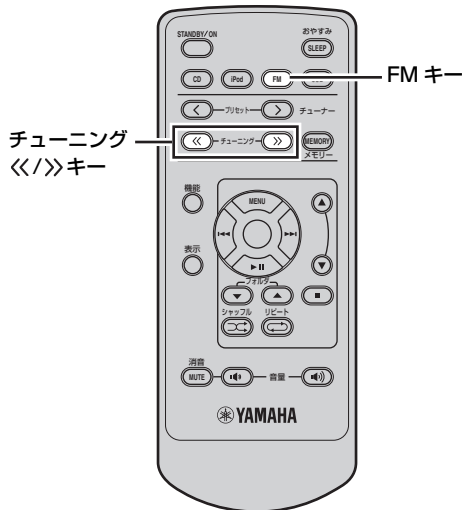
音楽 CD のシャッフルモード

MP3/WMA ディスクや USB デバイスのシャッフルモード

シャッフル再生を解除する

■ キーを押すか、SHUFFLE インジケーターが消灯するまでシャッフル⤨ キーを繰り返し押します。

放送局を選局する

自動選局と手動選局の 2 つの方法で選局することできます。放送局の受信感度が良い地域にお住まいの場合や電波が強い放送局を受信する場合は、自動選局が早くて便利です。受信感度が良くない地域や電波が弱い場合は、手動で選局することをおすすめします。また、受信した放送局を 30 局まで登録することができる自動 / 手動プリセットを使うこともできます。

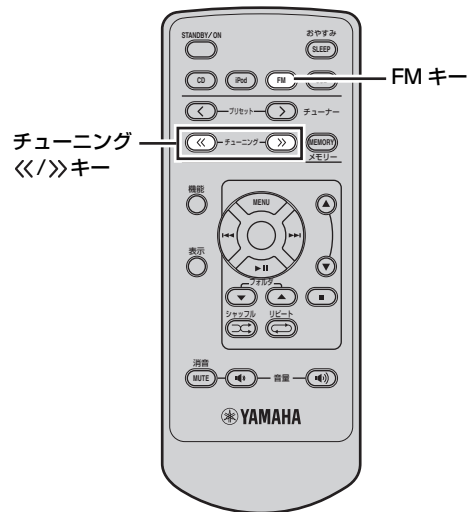
自動選局する

早くて便利な選局方法です。ただし放送局の受信感度が良くない地域にお住まいの場合や電波の弱い放送局を受信する場合、お好みの放送局が選局されない場合があります。この場合は右に記載の手動選局をご使用ください。

1 **FM キーを押して、入力ソースを「ＦＭ」に切り替えます。**

2 **チューニング《/》キーを長押しして、自動選局を開始します。**

自動選局中は、ディスプレイに AUTO インジケーターが点灯します。
低い周波数から高い周波数に向かって電波の強い放送局をサーチし、自動的に選局します。
自動選局が終了すると AUTO インジケーターは消灯します。

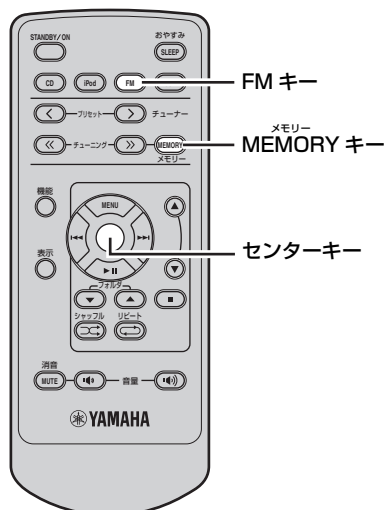
手動選局する

放送局の受信感度が良くない地域にお住まいの場合や電波の弱い放送局を受信する場合は、手動で選局することをおすすめします。

1 **FM キーを押して、入力ソースを「ＦＭ」に切り替えます。**

2 **チューニング《/》キーを繰り返し押して、手動でお好みの放送局を選局します。**

手動選局で受信した放送局はモノラルになります。

放送局を自動登録する（自動プリセット）

本機には受信状態が良好な放送局を自動的に受信し、受信した放送局を登録することができるプリセット機能が備わっています。放送局を登録しておくと、プリセット選局を使用して簡単に放送局を選局することができます。放送局の受信感度がよくない地域にお住まいの場合は、右に記載の手動プリセットをご使用ください。

1　FM キーを押して、入力ソースを「FM」に切り替えます。

2　MEMORY キーを 2 秒以上長押しします。
ディスプレイに「AUTO PRESET」、「Push Center Key」の順に表示されます。
キャンセルする場合は MEMORY キーを押します。

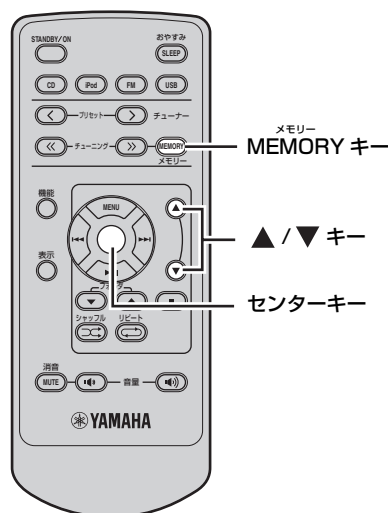
3　センターキーを押すと、自動で選局を開始します。
・自動プリセットが、低い周波数から高い周波数へ向かって選局を開始します。
・放送局を登録する際、自動的にプリセット番号を割り当てます。

4　放送を受信すると選局が停止し、プリセット放送局として登録します。

5　別の放送を受信するため、再び選局が開始されます。

・自動プリセットでは、FM 放送局を 30 局まで登録できます。
・同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消去され、新しい放送局に入れ替わります。

放送局を手動登録する（手動プリセット）

放送局を 30 局まで、手動で登録することもできます。

1　登録したい放送局を選択します。
詳しくは「手動選局する」（18 ページ）をご参照ください。

2　MEMORY キーを押します。
手動プリセットをキャンセルするまで、ディスプレイに MEMORY インジケーターと PRESET インジケーターが点灯します。
キャンセルする場合は MEMORY キーを押します。

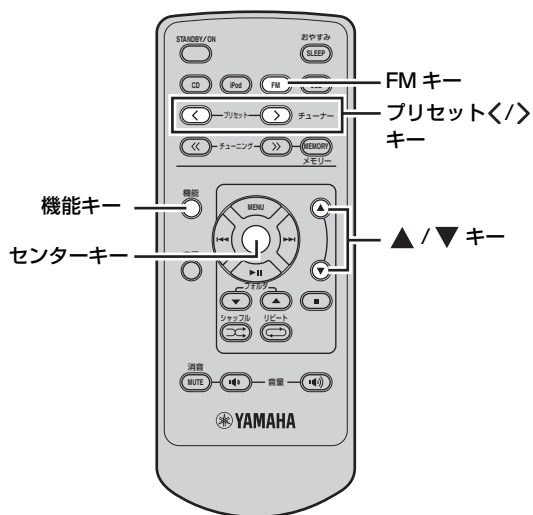
3　▲ / ▼ キーを繰り返し押して、プリセット番号を選択します。

4　プリセット番号が点滅している間にセンターキーを押します。
ディスプレイの MEMORY インジケーターが消灯します。

5　他の放送局を続けて登録するときは、手順 1 から 4 を繰り返します。

FM放送を聴く

登録した放送局を選局する（プリセット選局）

プリセット番号を選ぶだけで、登録した放送局（19 ページ）を選局することができます。

1 FM キーを押して、入力ソースを「ＦＭ」に切り替えます。

2 プリセット〈/〉キーを押して登録した放送局を選局します。

■ 登録した放送局を削除する

1 FM キーを押して、入力ソースを「FM」に切り替えます。

2 機能キーを押して、メニューを表示させ、▲ / ▼ キーを押して、PRESET DELETE を選びセンターキーを押します。

3 ▲ / ▼ キーを押して、削除したいプリセット番号を選び、センターキーを押します。

iPod™ を再生する

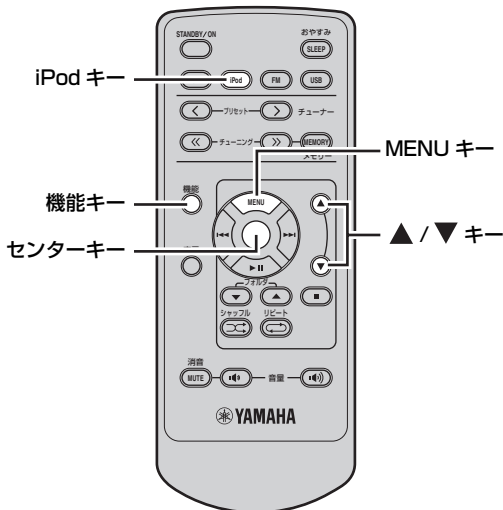
付属のリモコンでは、本機だけでなく iPod 端子にセットされた iPod を操作することもできます。

iPod™ を使う

本機のフロントパネル上面の iPod 端子に iPod をセットして (12 ページ)、iPod の画面を見ながら操作したり (シンプルリモートモード)、ディスプレイに表示されるメニューを見ながら操作したりすることができます（メニューブラウズモード)。

ご注意

・iPod（クリックホイール仕様)、iPod nano、iPod mini、iPod touch に対応しています。
・iPod の種類やソフトウェアのバージョンにより、一部の機能が使えない場合があります。

・リモコンの機能についての詳細は、「iPod」をご覧ください（7 ページ)。
・ディスプレイに表示されるメッセージについては、「故障かな？と思ったら」の iPod の欄をご覧ください（24 ページ)。

■ シンプルリモートモード

シンプルリモートモードは iPod の画面を見ながら、iPod 本体または付属のリモコンを使って再生の操作をします。

1 **iPod キーを押して、入力ソースを「iPod」に切り替えます。**

2 **機能キーを押して ▲ / ▼ でディスプレイに「iPod MODE」を表示させ、センターキーを押します。**

3 **▲ / ▼ を押して「SIMPLE REMOTE」を選びます。ディスプレイの「SIMPLE REMOTE」が点滅している間にセンターキーを押します。**
▲ / ▼ を押して「MENU BROWSE」を選び、メニューブラウズモードにすることもできます (22 ページ)。

4 **MENU/ ▲ / ▼ / センターキーを使って iPod の画面に表示される iPod のメニューを操作し、センターキーを押して選んだ曲（またはグループ）を再生します。**

応用操作

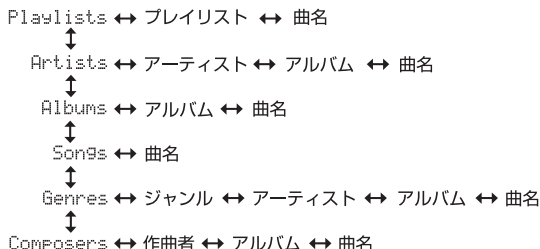
■ メニューブラウズモード

メニューブラウズモードでは、ディスプレイの表示を見ながら iPod を操作します。

ご注意

ディスプレイに表示される文字は英数字のみです。漢字や、ひらがな、カタカナ、特殊記号は表示されません。

iPod メニュー

Playlists ↔ プレイリスト ↔ 曲名
↕
Artists ↔ アーティスト ↔ アルバム ↔ 曲名
↕
Albums ↔ アルバム ↔ 曲名
↕
Songs ↔ 曲名
↕
Genres ↔ ジャンル ↔ アーティスト ↔ アルバム ↔ 曲名
↕
Composers ↔ 作曲者 ↔ アルバム ↔ 曲名

1 メニューブラウズモードに切り替えます。

「MENU BROWSE MODE」を選ぶには、21 ページの「シンプルリモートモード」の手順を参照してください。
ディスプレイに、iPod メニューの一番上の項目が表示されます。

操作インジケーター

操作インジケーター（4 ページ）は、操作可能なカーソルキーを表示します。

2 ▲ / ▼ キーを押してメニューを選び、センターキーを押して選んだメニューに移ります。

選んだメニューに保存された最初の項目名が表示されます。

- マルチインフォメーションインジケーター（4 ページ）に、現在選択されている iPod メニューが表示されます。
- iPod メニューの上の階層に戻るには、MENU キーを押します。

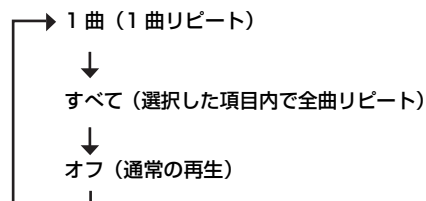
3 手順 2 を繰り返してお好みの項目を選び、センターキーを押して選んだ項目 (グループまたは曲) を再生してください。

メニューブラウズモードで曲またはアルバムを再生中に表示キーを押すと、ディスプレイに表示される再生情報（曲名、経過時間、アーティスト名、アルバム名）を切り替えることができます。

■ 繰り返し再生する（リピート再生）

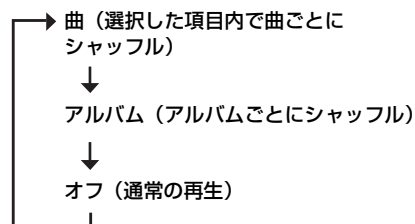
リピート再生を設定し、iPod を繰り返し再生することができます。

リピート⥀キーを押してお好みのリピートモードを選択します。

リピート⥀キーを押すごとに、リピートモードが以下の例のように切り替わります。正しくは、使用する iPod でご確認ください。

■ 順不同に再生する（シャッフル再生）

iPod の曲をシャッフル再生することができます。

シャッフル⤮キーを押します。

シャッフル⤮キーを押すごとに、シャッフルモードが以下のように切り替わります。正しくは、使用する iPod でご確認ください。

故障かな？と思ったら

使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は、まず下記をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や下記の対処を行っても正常に作動しない場合は、本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから、お買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点までお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れる	電源コードが正しく接続されていない。	電源コードを正しく接続してください。	11
	本機が落雷や過度の静電気など外部からの強い電気ショックを受けた。	本機の電源をスタンバイにして電源コードを抜いてください。約 30 秒後に電源コードをコンセントに再度接続し、電源をオンにしてください。	—
スピーカーから音が出ない	再生したい入力ソースが正しく選ばれていない。	本体の INPUT ボタンやリモコンの入力ソース選択キーで再生したい入力ソースを正しく選んでください。	—
	スピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	9
	音量が小さい。	音量を大きくしてください。	—
	CD-ROM など、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	—
片側のチャンネルの音がほとんど出ない	再生機器やスピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題が無いときはケーブルに不具合がある場合があります。	9
周囲に設置しているデジタル機器や高周波機器から雑音が出る	本機とデジタル機器または高周波機器の位置が近すぎる。	本機をそれらの機器から離して設置してください。	—

放送局の受信

	症状	原因	対策	参照ページ
FM	**ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい**	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナの接続を確認してください。	11
			アンテナを感度の良い、多素子の屋外アンテナに変えてください。	—
			手動選局をしてください。	18
	FM 専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	—
	自動選局ができない	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナを感度の良い、多素子の屋外アンテナに変えてください。	—
			手動選局をしてください。	18

iPod™

ご注意

本機のディスプレイに下記のメッセージが表示されない場合は、iPod の接続をご確認ください（12 ページ）。

表示	内容	対策	参照ページ
iPod Connecting	iPod との接続を確認中です。		
	iPod からの情報を取得中です。		
Connect error	iPod との通信に問題が発生しています。	本機の電源を切り、iPod を接続しなおしてください。	12
		iPod をセットしなおしてください。	—
Unknown iPod	本機に対応していない種類の iPod が接続されています。	本機は iPod（クリックホイール）、iPod nano、iPod mini、iPod touch に対応しています。	—
iPod	iPod が iPod 端子に正しく接続されました。		
iPod Unplugged	iPod が iPod 端子から取り外されました。	iPod を iPod 端子に接続してください。	12

USB

ご注意

下記のように対処しても不具合がある場合は、USB デバイスの接続をご確認ください (12 ページ)。

表示	内容	対策	参照ページ
Not Connected	USB デバイスが正しく確実に接続されていない	USB デバイスを接続しなおしてください。	12
Not Supported	非対応の USB デバイスが接続された	本機に対応した USB デバイスを使用してください。	12
Over Current	本機に対応していない USB デバイスを挿入したか、USB デバイスを斜めに挿入した。	一旦 USB デバイスを抜き、入力ソースを USB 以外に変更した後、再び USB に戻してください。その後、対応している USB デバイスをもう一度挿入してください。	12

ディスクの再生

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れる	電源コードが正しく接続されていない。	電源コードを正しく接続してください。	11
音が出ない、または歪む	MP3/WMA ファイルのサンプリング周波数が本機に対応していない。	サンプリング周波数またはビットレートが本機に対応しているか確認してください。	26
ディスクをセットしても再生されない	CD-R/RW がファイナライズされていない。	CD-R/RW をファイナライズしてください。	—
	ディスクが裏返しにセットされている。	ディスクのレーベル面を上にしてセットしてください。	—
	ディスクに不具合がある。	他のディスクを再生してください。同様の問題が生じない場合は、最初のディスクに不具合があります。	—
	MP3/WMA ディスクに入っているトラックが少ない。	MP3/WMA ディスクに少なくとも 5 ファイル以上の MP3/WMA ファイルが入っているか確認してください。ファイルが少ないとディスクが認識されない場合があります。	—
	MP3/WMA ファイルのサンプリング周波数が本機に対応していない。	サンプリング周波数またはビットレートが本機に対応しているか確認してください。	26
USB デバイスに保存された音楽ファイルを再生できない	USB デバイスが正しく接続されていない。	USB デバイスを接続しなおしてください。	12
	MP3/WMA ファイルのフォーマットが本機に対応していない。	本機で対応しているファイルと交換してください。	26

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで本機を操作できない	リモコンの操作範囲外から操作しようとしている。	リモコンの操作範囲については、「リモコンを使用する」をご参照ください。	8
	本機のリモコン受光窓に直射日光や照明があたっている。	照明または本機の向きを変えてください。	—
	電池が消耗している。	新しい電池と交換してください。	8
	リモコンと本機の受光窓の間に障害物がある。	障害物を取り除いてください。	—

ディスク /MP3、WMA ファイルについて

■ 本機で再生できるディスク（音楽 CD）

本機は、コンパクトディスク（オーディオ CD）専用のプレーヤーです。本機で再生する場合、下記のマークが付いたディスクを必ずご使用ください。また、本機の性能を十分生かすために、信頼できるディスクをご使用ください。

…. **コンパクトディスク（オーディオ CD）**
市販の音楽 CD として最もポピュラーなディスクです。

…. **CD-R、CD-RW ディスク**
ご自分で書き込んだ CD-R や CD-RW を音楽 CD として再生できます。MP3 または WMA 形式の音声も再生できます。

ご注意

- 信頼できるメーカーのディスクを必ずご使用ください。
- ディスクやケースに下記のいずれかの表示のあるディスクをご使用ください
  FOR CONSUMER
  FOR CONSUMER USE
  FOR MUSIC USE ONLY
- CD-R または CD-RW はファイナライズされたディスクのみ再生できます。

…. **CD-TEXT ディスク**
アルバム名、曲名、アーティスト名などの文字情報が記録されたディスクです。

ご注意

- 上記以外のディスク (変形ディスクも含みます。) はご使用にならないでください。
  上記以外のコンパクトディスクを本機にセットしますと、正しく演奏できないばかりでなく、ディスクの破損や本機の故障の原因となる場合があります。

- 一部の CD-RW ディスクや正しく録音されていないディスクは、本機では再生できない場合があります。

■ MP3 および WMA ディスクについて

本機では CD-R、CD-RW、USB デバイスに収録した MP3、WMA ファイルを再生することができます。

MP3

MPEG-1 Audio Layer-3 の略で、音声データを圧縮するフォーマットの一つです。音楽 CD と同じレベルの音質を維持してデータ容量を圧縮することができます。再生可能なフォーマットは次の通りです。

- MPEG-1 Audio Layer3
  ビットレート * : 32-320kbps
  サンプリング周波数：44.1/48/32kHz
- MPEG-2 Audio Layer3, 2
  ビットレート * : 8-160kbps
  サンプリング周波数：24/22.05/16kHz

* 可変ビットレートに対応しています。

WMA

Windows Media Audio の略で、MP3 と同様に音声データを圧縮するフォーマットの一つです。
MP3 よりも高い圧縮率で、データ容量を圧縮することができます。
再生可能なフォーマットは次の通りです。

- バージョン：8
- バージョン：9（標準 / 可変ビットレート対応、Professional and Lossless 非対応）
- High Profile
  ビットレート * : 32-320kbps
  サンプリング周波数：48/44.1/32kHz
- Mid Profile
  ビットレート：16-32kbps
  サンプリング周波数：22.05/16kHz

* 固定ビットレートおよび可変ビットレートに対応しています。

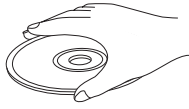
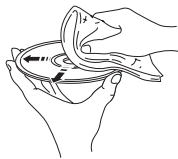
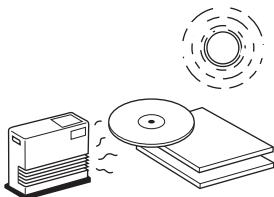
ご注意

- Data Disc はファイルをアルファベット順に再生します。
- USB デバイスはファイルの作成日時順に再生します。
- 本機は ISO9660 フォーマットのディスクに対応しています。
- 本機では、著作権保護された WMA（DRM）ファイルは再生できません。
- ファイル数の上限は次の通りです。

	Data Disc	USB
ファイルとフォルダーの最大合計数 *	512	9,999
最大フォルダ数 *	255	255
1 フォルダ内の最大ファイル数	511	255

* ルートもフォルダーの一つとして数えます。

■ 取り扱いの注意

・ できるだけコンパクトディスクの縁を持つようにして、表面に触れないように扱ってください。

・ ディスクにセロハンテープやレンタル CD のラベルなどの糊がはみ出したり、はがしたあとがあるものはお使いにならないでください。そのままプレーヤーにかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障する原因となることがあります。
・ レーベル面に紙など（レーベル面用のシールも含みます）を貼ったり、ボールペン等、先の固いもので文字を書いたりしないでください。
・ 折り曲げたり、強い衝撃を与えたりしないよう注意して扱ってください。
・ 再生が終わったディスクは必ずケースに入れて保管してください。
・ 信号記録面に傷をつけないよう、特にケースからの出し入れには注意してください。
・ 記録面に指紋やほこりがついたときは、柔らかな布などで軽く内側中心から外側へ直角方向に拭いてください。
ほこりや汚れは柔らかい布で軽く拭き取ってください。

・ レコードスプレー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどで絶対に拭かないでください。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。また、水で拭くことも避けてください。
・ 直射日光の当たる場所や、高温多湿な場所に長時間置くと、ディスクが変形したりして使用できなくなる原因となりますので、絶対に置かないでください。

８センチ CD を再生するには

ディスクトレイの内側のくぼみに 8 センチ CD をセットしてください。また、8 センチ CD の上に 12 センチ CD を重ねて置かないでください。

お知らせ

使用環境により異なりますが、レンズのクリーニングは必要ありません。誤動作の原因になるため、市販のレンズクリーナーは使用しないでください。

その他の情報

用語解説

オーディオ情報

■ MP3（MPEG-1 Audio Layer-3）
MPEG で利用される音声圧縮方式の一つ。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しています。音楽 CD 並みの音質を保ったままデータ量を約 1/11 に圧縮できるといわれています。

■ PCM (Pulse Code Modulation)
アナログ信号を圧縮せずに変調記録する方式。音楽 CD は、44.1 kHz/16 bit で記録されています。

■ サンプリング周波数／量子化ビット数
アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1 秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数をサンプリング周波数といい、音の大きさを数値化するときのきめの細かさを量子化ビット数といいます。再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、音量の差を表わすダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まります。原理的には、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。

■ トラック
CD は、いくつかの区切り（トラック）に分けられています。これらの区切りの番号をトラック番号と呼びます。

■ WMA（Windows Media Audio）
Microsoft 社が開発した音声圧縮方式。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しています。音楽 CD 並みの音質を保ったままデータ量を約 1/22（64 kbps）まで圧縮できるといわれています。

商標

iPod™

iPod は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標または登録商標です。
「Made for iPod」とは、iPod 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーによって認定された電子アクセサリーであることを示します。アップルは、これらの機器操作または、安全規制基準に関する一切の責任を負いません。

主な仕様

■　プレーヤー部

再生システム
・CD、CD-R/RW

オーディオ部性能
・DAC .... 192 kHz/24 bit

■　アンプ部
・実用最大出力
　(1 kHz、全高調波歪率 10%、6 Ω)......20 W + 20 W
・全高調波歪率（1kHz）
　CD 10 W、6 Ω 0.03%
・出力レベル / インピーダンス
　PHONES（最大ボリューム）...................... 0.6 V/32 Ω

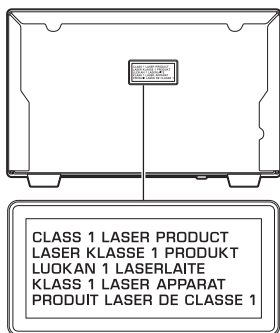
■　チューナー部
FM 部
・受信周波数範囲 .... 76.0 〜 90.0 MHz
・感度
　FM（S/N 30dB）.. 7dbµVm

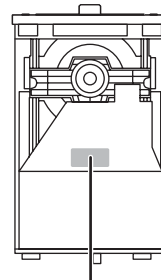
■　総合
・電源電圧／周波数 .... AC 100 V, 50/60 Hz
・消費電力 .... 25 W
・待機時消費電力 * .... 1 W 以下
・外形寸法 (幅 x 高さ x 奥行き) ..... 180 x 117 x 303 mm
・質量 .... 3.1 kg
　* ECO MODE が ON の場合。

仕様、および外観は、製品の改良のため予告なく変更することがあります。

レーザー

タイプ	半導体レーザー GaAs/GaAlAs
波長	780 nm
出力	10 mW

クラス 1 レーザー製品

ご注意

この取扱説明書に記載されている以外の調節や操作は、有害な放射を引き起こす可能性があります。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-4830

FAX（053）463-1127

受付：月～金曜日 9:00～19:00 土曜日 9:00～17:30
（日曜、祝日およびセンターの休業日を除く）

修理お持ち込み窓口

受付：月～金曜日 9:00～17:45
（土曜、日曜、祝日および弊社の休業日を除く）

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市東区和田町200
ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間

お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ･リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか？

- 電源コード･プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常･故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検･修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1